



●BOOK

『私たちの教室からは米軍基地が見えます—普天間第二小学校文集「そてつ」からのメッセージ』

渡辺 豪=著

定価：1470円（税込）
出版社：ポードアインク



普天間基地の「返還」が日米間で合意されてから15年。今や辺野古への「移設」は不可能となりつつあります。そんな中「普天間固定化もやむなし。なぜなら沖縄が反対するから」というのが政府の描くシナリオのようです。

しかし「世界一危険な基地」といわれる普天間基地に隣接して暮らす人がいる、という現実をその地に住んでいない私たちはどれ程理解しているのでしょうか。2004年の沖縄国際大学へのヘリ墜落にみるように、爆音だけではなく、常に事故に巻き込まれる危険にもさらされています。小学校がなぜ基地に隣接しているのか、なぜそんな危険な場所に暮らし続けなければならないのか。

広大な米軍基地の周りにひしめきながら暮らさざるを得ない住民地域。その不公平な様子をまるで「あんなパンの真中だけをぬかれてしまっ

たドーナツのようなものです」と表現した男の子。早朝から深夜まで繰り返される軍事ヘリ訓練による爆音で耳が遠くなり、声が大きくなり、授業が何度も中断される「日常」に慣らされてしまう子どもたち。

普天間第二小学校の文集「そてつ」には基地のそばで暮らす子どもたちの想いが書かれています。そしてその子が大人になった今何を感じているかを沖縄タイムス社記者・渡辺豪が取材し、新聞の連載記事となりました。そこに追加取材を加えて新たに構成し直したのが本書です。

当時子どもが親になり、その子どもが小学校に通っています。戦後67年、「復帰」から40年の重みを感じます。もうこれ以上、この現状を続けさせてはならないと思います。

（グリーンアクションさいたま
渡辺美緒貴）